



▼①消防団員の指導で放水訓練②指令室で119番受信訓練③地上40mのはしご車による救出訓練④救命講習⑤地上7mのロープでの綱渡り訓練

極限

未知

集中

懸命

緊張

いのち 生命・地域 ボクが守ると誓った夏 中学生が1泊2日で消防訓練

地域防災への関心を高めてもらおうと、2日間の日程で、中学生を対象とした「未来の防災リーダー」育成講座を開催しました。

学校も学年も違う35人が参加。消防庁舎に泊まり込み、救命講習やロープでの綱渡り訓練などに挑戦しました。

8月9日、そろいのユニホームに身を包んだ中学生35人が、消防庁舎に勢ぞろいしました。彼らは「未来の防災リーダー」育成講座の受講生。消防士さんからの10種類の訓練に挑みました。

初めて経験する放水訓練や救命講習に瞳は輝き、額には滝のような汗。慣れない包丁を使った食事の準備や簡易ベッドを組み立てる寝床づくりも行いました。

災害を想定し、仲間と協力しあう姿から、目に見えない絆が芽生えはじめていました。

災害時に生かすチームワークの大切さを学ぶ

2日目は地上7メートルのロープでの綱渡りや煙が充満した25メートルの細い通路を通り抜ける訓練に挑戦。初日よりさらに過酷な内容に、次第に声が出なくなっていました。

しかし、毛布を使った担架づくりや放水のタイムを競う最後の競技会で、彼らの底力が発揮されます。

真剣な表情で、担架を組み立て、息を合わせて人形を搬送するメンバー。声を枯らしながら応援する仲間たち。災害時で最も重要な「仲間を信じ、連携するチームワークの大切さ」を身をもって学びました。

全日程が終わり、少し日焼けした腕で修了証を受ける彼らの表情は晴れやか。この経験をいざというとき役立てることが、未来の防災リーダーである彼らに期待されています。

未来を見つめ、平和への誓い ホノルル市と青少年の教育交流に合意

長岡空襲と真珠湾攻撃で「戦争」という同じ痛みを味わった長岡市とホノルル市。

両市の交流が3年目を迎えた今年、この平和交流を一歩進めるため、相互の市民交流と青少年の教育交流を行うことに合意。森市長（日米友好の架け橋実行委員会会長）とホノルル市の代表として訪れたハワイ日米協会会長・エドウィン・ホーキンスさんが合意書にサインを交わしました。

両市の交流は、真珠湾攻撃を指揮した山本五十六が長岡出身という縁もあり、森市長がホノルル市で開催された日米市長交流会議に出席した平成19年8月から交流が始まりました。



▲合意書を掲げる森市長とハワイ日米協会会長・エドウィン・ホーキンスさん（8月3日）

今年3月には、市内の中学生22人がホノルル市を訪問。太平洋戦争の降伏調印式が行われた戦艦ミズーリの見学やパンチボウル国立太平洋記念墓地での慰霊の献花など、互いの歴史を理解する交流が深まっています。

今後は、中・高校生の教育交流を軸に、芸術文化、スポーツ、産業、観光などへと交流の輪を広げていきます。

国際交流課 ☎39・2207



▲長岡市の中学生がパンチボウル国立太平洋記念墓地で献花（3月29日）

長岡とホノルルが創る明日



【両市のこれから】
平成23年2月 ホノルル市の中・高校生を長岡雪し祭りに招待
平成23年3月 ホノルル市フェスティバルに参加
◎市民訪問団の派遣（後日、市政だよりで募集します）
○長岡花火の打ち上げ
※ホノルルフェスティバルの経費は9月定例会で審議予定

両市の主な交流の歩み

- 平成19年8月 森市長がホノルル市で開催された日米市長交流会議に出席。ホノルル市長と平和交流で意気投合
- 平成19年11月 ハワイ州代表団がホノルル新潟県人会設立100周年事業の協力要請のため森市長を表敬
- 平成20年10月 森市長を団長に親善訪問団がホノルル市へ
- 平成21年8月 長岡市で日米友好の架け橋実行委員会が発足
- 平成21年12月 真珠湾攻撃追悼式典に長岡市代表団が出席
- 平成22年3月 長岡市の中学生22人がホノルル市を訪問